

『2月の注目市場:天然ガス』

天然ガス先物価格の動向と要因分析



天然ガス先物価格は、2023年10月頃をピークに下落傾向にあります。この下落は、以下の要因が複合的に作用していると考えられます。

<需要減少>

- 暖冬: 2023年-2024年の冬は、北米や欧州で例年より暖冬傾向となり、暖房需要が減少し天然ガス消費量が減少しました。
- 経済減速: 世界経済の減速懸念から、製造業を中心に天然ガス需要が減退しています。
- エネルギー価格高騰: 石炭や石油などのエネルギー価格高騰により、代替燃料へのスイッチが進み、天然ガス需要が減少しています。

<供給増加>

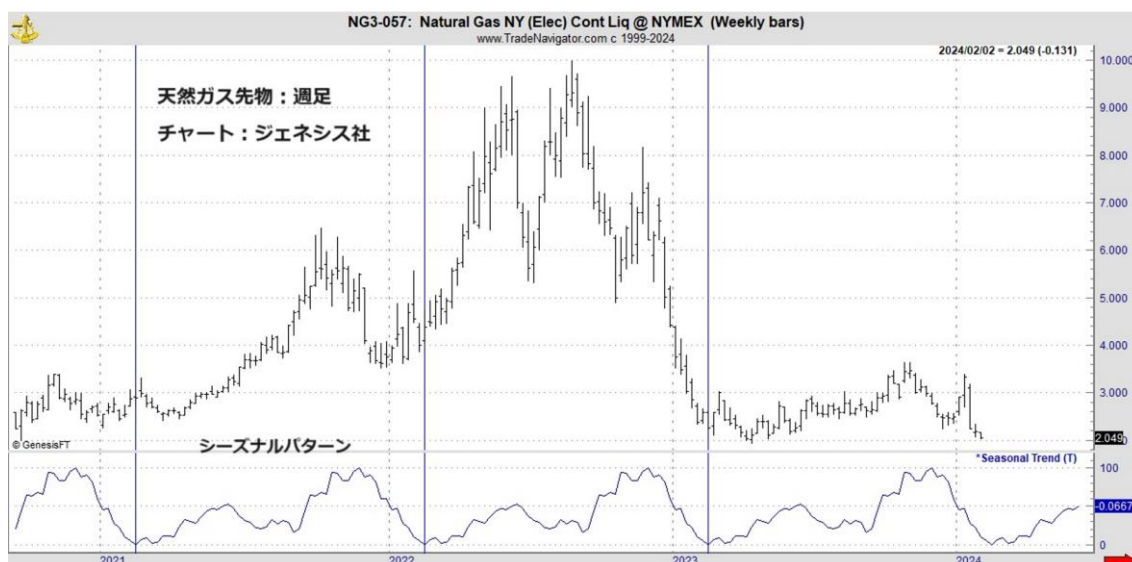
- 米国産シェールガス増産: 米国ではシェールガスの生産量が引き続き増加しており、市場への供給量が増加しています。

- LNG 輸出量増加: 米国からの LNG 輸出量が世界的に増加しており、市場全体の供給量が増加しています。

<その他>

- 金融市場の混乱: 金利上昇やドル高など、金融市場の混乱がリスク回避の動きを呼び、投機筋による天然ガス先物買いが減退しています。
- ウクライナ情勢: ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー供給不安が和らぎ、市場心理が落ち着いています。

季節性パターンと現在の市場状況



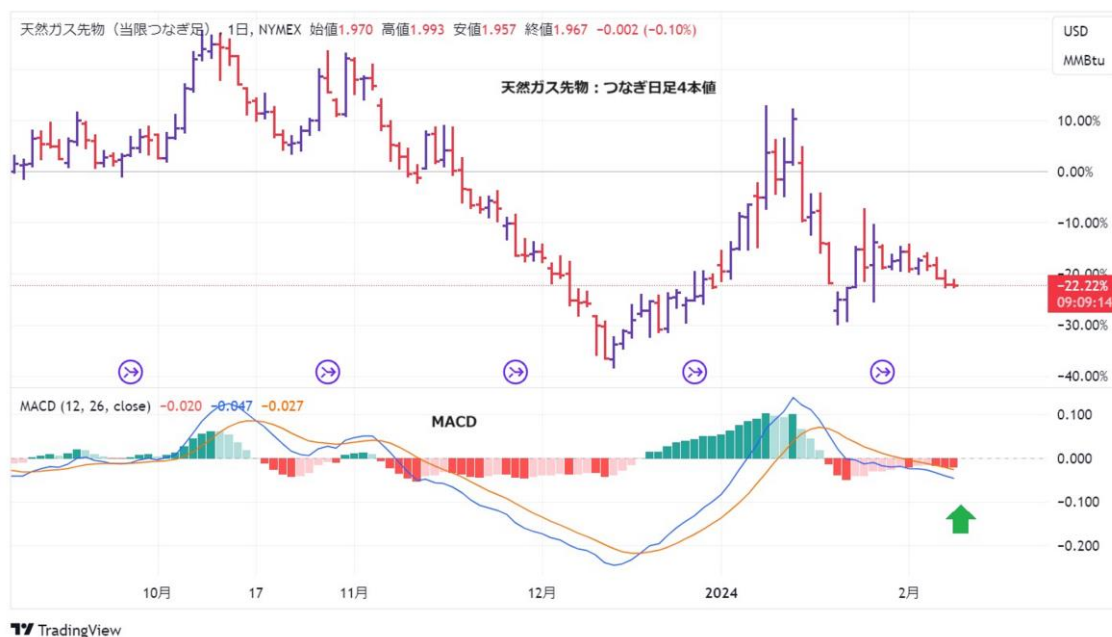
天然ガスの価格は、季節性パターンによって大きく変動します。例年、天然ガス先物市場は2月中旬から6月中旬にかけて上昇し、その後いったん落ち着きますが、9月中旬から12月初めにかけて再び上昇する傾向があります。

しかし、現状では、上記の季節性パターンとは異なる動きが見られます。米国商品先物取引委員会(CFTC)が2月2日(金)に公表したCOTレポートによると、投機筋のマネー・ジドマネー(青線)のネットポジションは買い持ち(ロング)で、生産者などのコマーシャルズ(赤線)のネットポジションを上回っています。これは、過去には上昇に転じていたシグナルですが、現在は下降トレンドが続いています。



買いシグナルとリスク管理

セットアップは“シグナル”ではありません。マーケットは転換する準備が整っているだけで、実際に買うには買いシグナルが必要です。買いシグナルの一例として、トレンド系テクニカル指標であるMACDの陽転があります。しかし、買いシグナルが発動されたとしても、リスクと資金管理を怠ることはできません。



特に、ロシアによるウクライナ侵攻以後、エネルギー分野のボラティリティーは非常に高くなっています。シカゴ・マーカンタイル取引所(CME)の GLOBEX に上場している天然ガス先物は一日、23時間、取引され、ほぼ一日、フルに取引できます。しかし、GLOBEX は週末、休場していますので、その間にエネルギー市場にとって悪影響を与える出来事が起きると、取引が再開される休場明けの市場は混乱し、売買が成立しないことも起きます。そのため、ストップ注文が想定した価格から大きく外れて執行されることもあります。

このようなリスクを回避し、トレードを管理する商品として、ノックアウト(KO)・オプションの利用を検討できます。

出典

U.S. Energy Information Administration (EIA)

<https://www.eia.gov/>

=====

SEAHAWK PTE LTD が提供するレポートは一般に公開されている情報に基づいて記述されておりますが、その内容の正確さや完全さを保証するものではありません。本レポートはあくまで参考情報であり、SEAHAWK PTE LTD および二次的に配信を行う会社は、如何なる金融商品の売買を勧めるではありません。取引を行う際はリスクを熟知した上で、完全なる自己責任において行って下さい。SEAHAWK PTE LTD および二次的に配信を行う会社は本レポートの利用あるいは取引により生ずる如何なる損害の責任を負うものではありません。なお、許可なく本レポートの全部もしくは一部の転送、複製、転用、検索可能システムへの保存はご遠慮ください。